

生活改善には程遠い低額回答!! 格差を生むベアに抗議する!!

評価による定期昇給は実施。

「基本給額に0.1%を乗じ、プラス700円を積む（平均1,000円）、シニア社員ベア定額1,000円」

3月17日、貨物会社は「2023年4月1日以降の賃金引上げに関する申し入れ（国労闘申第7号）」に対して、「評価による定期昇給を実施する。7月1日現在の基本給額に0.1%を乗じ、プラス700円を積む（平均1,000円）。シニア社員定額1,000円」と回答を行いました。

国労本部は、今回の回答は、「有額回答」ではあるものの、賃金格差が生まれるものであり、社員と家族の生活改善には程遠く、自然災害やコロナ禍による減収を社員に転嫁するものでしかないと抗議してきました。

「ベア実施」で生活改善を望んでいたが・・・

貨物会社は、2022年度の事業計画で連結55億円、単体38億円の経常黒字を目指してきましたが、コロナ禍やロシアの侵略戦争、異常な円安による物価高騰などの影響により、四半期毎に下方修正が繰り返され、計画の見通しに問題があったと疑わざるを得ません。

この間の交渉では、業績は手当に反映し、ベアは物価の上昇などをみて判断する考えであり、現在の物価上昇を考えれば、「ベア」を実施すると明らかになりました。しかし、貨物会社の回答は、7月1日現在の基本給額に0.1%を乗じ、プラス700円を積む（平均1,000円）。シニア社員定額1,000円と、昨年に引き続き、格差と競争が持ち込まれるものとなっています。また、現在の物価上昇分には程遠く、生活が改善されるものではありません。

積み上げられた内部留保を社員へ

深刻なのは、初任給よりも低い賃金であるシニア社員の生活です。光熱・水道費は昨年に比べ倍近くにまで値上がりし、3万品目以上が軒並値上げとなっている今、生活費は大きく膨らみ、より毎月の賃金では厳しい状況となっています。今後さらに多くが値上げされるとされており、さらに生活が厳しくなることが予想されます。しかし、一方では、設備投資計画を変更することなく毎年400億円の設備投資は実施することを明言するとともに、18年連続で「ベアゼロ」で賃金を上げてこなかった一方で、この10年余りで、内部留保を約300億円積み上げています。それらを取り崩し、社員へ還元するよう再考を求めます。

低額回答では生活は改善できない。



貨物会社の回答は、昨年に引き続き、基本給額によって「ベア額」が異なるものであり、今後の賃金にも影響を与えるものとなっています。評価制度導入時の交渉において、国労は、「すべての処遇は評価により決定する。」こと、「労働者間に競争が持ち込まれるものである」ことを指摘してきましたが、基本給に対し、定率によりベアを実施するとした考え方は、評価制度による賃金の変動、等級の違いによる昇給の格差を更に拡大し、上位職への配分を手厚くすることで、社員間の更なる競争と分断を煽るものです。国労は、「格差を生むベア」「低額回答」に断固抗議し、社員と家族生活改善できるように強く求めます。

国労と共に生活改善、労働条件改善に向け声を上げましょう。

